

米国大統領選：開幕ダッシュに成功した民主党ブティジェッジ氏

11月の大統領選に向けた民主党の大統領候補選びが正式にスタート。アイオワ州の党員集会、ニューハンプシャー州の予備選挙において、これまで全国レベルの世論調査でリードを守っていたバイデン氏が失速する中、同じく中道派のブティジェッジ氏が躍進した。しかし、急進左派のサンダース氏もブティジェッジ氏とほぼ同数の代議員数を確保し、中道派と急進左派の対立が継続。さらに、スーパーチューズデーからは中道派のブルームバーグ氏が参戦することから、民主党の候補者選びが7月の全国大会までもつれ込み、挙党体制を整えられない可能性が高まっている。こうした展開は、共和党・トランプ大統領にとっては再選への追い風である。

民主党の大統領候補者は「代議員」によって決まる

2月3日のアイオワ州党員集会を皮切りに、民主党の大統領候補選びが本格的に始まった。今後は各州で予備選挙・党員集会が相次ぎ実施され、7月13日～16日にウィスコンシン州で開かれる民主党全国大会において、トランプ現大統領と大統領の座を争う民主党の候補者が正式に決まる。

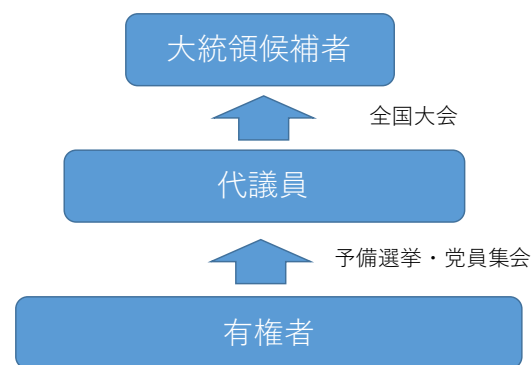
民主党の大統領候補者選びのシステムは、一見すると、有権者が直接候補者に投票しているように見えるが、「代議員」が有権者と候補者の間に入る間接選挙の形式である。各州の党員集会や予備選挙で有権者に選ばれた3,979名の「宣誓代議員」が全国大会で候補者に投票し、過半数を獲得した者が正式な民主党の大統領候補者となる。この「宣誓代議員」は各予備選・党員集会においてどの候補者に投票するかを約束（宣誓）しているため、実質的には有権者が候補者を選ぶことになる。ただし、1回目の投票で過半数を獲得した候補者が現れず、2回目の投票へ進む場合、3,979名の代議員はどの候補者に投票するかの「宣誓」から解放され自由に候補者を選べるようになることに加え、投票に制約のない「特別代議員」が771名新たに参加する。そのため、2回目の投票で選ばれた候補者は民意からかけ離れた人物になることもあり得る。

2月前半に投票が行われたアイオワ州とニューハンプシャー州に割り当てられた宣誓代議員はそれぞれ41名（全体の1%）、24名（0.6%）に過ぎず、代議員数だけで見れば重要性が大きいとは言えない。しかし、それでもアイオワ州とニューハンプシャー州が注目される理由は、近年の民主党大統領候補者選びにおいて、正式な候補者となった者はいずれかの州で首位、または2位を獲得したという経験則が存在するためである。序盤戦である両州でトップ争いに絡むことで、全米から注目や選挙資金が集まり、その後の選挙戦を有利に進められるといった事情が指摘される。

最初の2州ではバイデン氏が失速、ブティジェッジ氏が躍進

2月3日に行われたアイオワ州党員集会は、集計アプリの不具合により集計が進まず、二週間以上結果

民主党大統領候補選びのプロセス



（出所）筆者作成

を確定できない波乱の幕開けとなった。一部再集計を行っており、結果はいまだ暫定値ながらブティージェッジ元サウスベンド市長（中道派）が 26.2%の支持を集め、41 人中 14 人の代議員を獲得、サンダース上院議員（急進左派）が 26.1%で 12 人、ウォーレン上院議員（急進左派）が 18.0%で 8 名、バイデン前副大統領（中道派）が 15.8%で 6 人、クロブチャー上院議員（中道派）が 12.3%で 1 人となった。事前の世論調査ではサンダース氏が頭一つ抜けて支持を集め、バイデン氏、ブティージェッジ氏が続いていたが、結果はブティージェッジ氏が予想以上の得票を収め、バイデン氏は相対的に後退した結果となった。更に、ブティージェッジ氏の優勢が報じられると、その後の世論調査でブティージェッジ氏の支持率が急上昇し、一方で同じ中道派であるバイデン氏の支持率が低下した。

続く 2 月 11 日に行われたニューハンプシャー州の予備選挙では、世論調査通りサンダース氏が 25.8%の支持を集め、24 人中 9 人の代議員を獲得。また、ブティージェッジ氏（24.5%）も下馬評を上回る支持を集めサンダース氏と同じ 9 人の代議員を獲得、クロブチャー氏（19.9%）が 6 人と続いた。一方、ウォーレン氏（9.2%）とバイデン氏（8.4%）は同州で十分な支持を得られず、代議員を獲得できなかった。

これまでのアイオワ、ニューハンプシャー両州の選挙では、①バイデン氏のつまづき、②ブティージェッジ氏の躍進の印象が強い。バイデン氏については、出馬表明を行った 2019 年 4 月以降、全国の世論調査ではトップを走り続けていたが、2 月に近づくにつれて世論調査の支持率が低下、更に 2 州の結果は世論調査の支持率ほど票が得られなかった。一方、ブティージェッジ氏は支持率ではバイデン氏やサンダース氏、ウォーレン氏の後塵を拝してきたが、特にアイオワ、ニューハンプシャーでの選挙戦に力を入れたことなどが奏功し、実際の得票は世論調査以上の勢いがあった。この背景には、民主党支持者が「トランプ大統領に勝てる」候補者を強く求めていることが考えられる。これまでのテレビ討論会でバイデン氏の言動は総じて精彩を欠いているとの評価が広がり、民主党支持者は本選でトランプ大統領と論戦を交えることができるのか疑念を抱いた反面、同じ中道派の中で巧みなディベートを行うブティージェッジ氏に期待が集まり始めた可能性がある。

なお、ニューハンプシャー州ではサンダース氏が得票率トップとなったが、同氏は前回 2016 年の同州での民主党予備選挙で、最終的に正式な候補者となったクリントン氏を 20%pt 以上引き離して大勝している。この点を踏まえると、ブティージェッジ氏は僅差で 2 位になったとは言え、サンダース氏相手にかなり健闘したと見ることができる。一方のサンダース氏は今回辛勝に留まったことを受けて、戦略の修正を求められていく可能性がある。

ブルームバーグ氏参戦もあり民主党候補の絞り込みはまだ先

もっとも、開幕ダッシュに成功したブティージェッジ氏がこのまま好調を維持できるかどうかは予断を許さない。3 月 3 日の「スーパーチューズデー」（代議員数の多いカリフォルニア州など 14 州の予備選挙などが行われ、全代議員の約 1/3 が決まる）から、現在は選挙戦に参加していないブルームバーグ前ニューヨーク市長（中道派）が参戦するためである。寄付に頼らず多額の自己資金で選挙活動を行う同氏は、ニューヨーク市長時代の実績や銃規制の必要性を主張し、全国の世論調査ではすでにサンダース氏、バイデン氏に次ぐ 3 位につけている。同じ中道派、サウスベンド市という小都市の市長¹、選挙資金力が相対的に

¹ ブティージェッジ氏について詳しくは下記レポートを参照されたい。

「2020 年米国大統領選の注目候補 ブティージェッジ氏（サウスベンド市長）」（2019 年 12 月 27 日）

<https://www.itochu-research.com/ja/report/2019/1794/>

弱いブティージェッジ氏がブルームバーグ氏に飲まれる可能性は否定できない。

また、再び 2016 年と比較すると、当時はニューハンプシャー州の予備選挙が終わった時点で残る候補者はクリントン氏とサンダース氏の 2 名に絞られていたが、今回は依然 8 人残っており、掲げる政策にもバラつきが大きい。そのため、民主党の候補者絞り込みは 7 月の全国大会（場合によっては 2 回目の投票）までかかることもあり得る。

なお、共和党でも民主党と同様、各州において予備選挙・党員集会が実施されている。トランプ大統領は、アイオワ州の党員集会、ニューハンプシャー州の予備選挙ではそれぞれ 97.1%、85.4%の支持を集め、本選に向けて盤石な体制を築いている。民主党の候補者選びがもつれて、党一丸の体制づくりが遅れるほど、トランプ大統領がますます有利になると考えられる。